

時間の管理

◇ 「他の子どもに合わせる」とか、「あせる」ことがないので、極端にはやくしてしまったり、ていねいにしてしまったりするため、時間がかかりすぎる場合があります。

- ・ 場面の切り替えや気持ちの切り替えが難しいので、時間がかかる場合も多いのです。
- ・ 時間の管理をさせる、スピードアップさせる工夫（タイマーの使用に慣れる、スケジュール表を利用させる、いつも時計が見える場所に座るなど。）が必要です。
- ・ ゆっくりする、または急がなければいけない理由も学習させてから、子どもと一緒に取り組みましょう。



【タイムタイマー】

Time Timer LLC

14 ひも結びにチャレンジ

お弁当のナプキン、エプロンのひも、帽子のひも

- 完成したものや、作業の手順や様子が分かるビデオなどを見せて、見通しを立てられるようにしましょう。
- となりで一緒にしながら、細かく具体的に説明しましょう。



【ひも結び練習用具】



担任のコメント

子どもの好きな色のひもを使い、練習用具を作りました。

となりで一緒にしたり、おうちでも同じ物を使って練習しました。

ひも結びができるようになり、いろいろな物を結ぶ楽しさが出てきたようです。



15 がんばり表

- 得意な活動から始め、次に苦手なものに移っていくようにしてみました。
- がんばり表など、活動に取り組む励みとなるようなものを工夫しました。取り組めたときにはシールを貼り、励ますようにしました。



【がんばり表】



担任のコメント

苦手な活動に取り組むために、1日1回取り組むことができたときにはシールを貼るようにしました。

シールがいっぱいになっていくカードを見て、少しずつ意欲が出てきました。



16 じょうずに座れたよ

○いすからすぐに立ったり、いすのはしにちょこっとおしりを乗せたりと、上手な座り方を知らない子どもがいます。



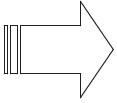
【座り方のよい例とよくない例の絵】



担任のコメント

朝の会や帰りの会で、座り方のよい例・よくない例を絵で示し、意識させることで、姿勢がよくなりました。





モデルを示す

◇ 「ちゃんと～しましょう。」「しっかり～しましょう。」
などという先生の言葉をよく聞きます。

そのときは「ちゃんと」や「しっかり」ってどういう
意味か分からないけれど「はい」と返事をしている子
どもがいます。

だから、動けなかったり、間違ったりするのです。

分かりやすい言葉でその内容をていねいに説明すると
ともにモデルを示すことで、より理解が深まります。





サポートシステムを整えよう



1 先生へのお願い

1 先生へのお願い

まずは支援ありき



- 診断は「育て方」のせいではないこと、支援の継続性が必要であることを示したり、大まかな方向性を決めるためのもの
- 個々の子どもや教師、親の困難さに対して、個別的な配慮や工夫を行うこと
- 診断がないと支援ができないというのはウソ、緻密な行動観察から実態を分析し、支援を行う
- 診断につなげられるような支援や信頼関係を築く

保護者との関係づくり



- 自分の価値観を押しつけない
- 説教しない
- 勝手に診断しない
- 自分の「思い」を言う前に親の「思い」をよく聞く
- 子どもに関する共通理解
- 意見が異なる場合、その背景要因を考える
- 親の意見を取り入れ、ともに考えていく姿勢
- 子どもによりよい教育のために、互いの知恵や考えを出せる関係づくり
- 専門機関へのつなぎを考える

教師間連携



- 一人で抱え込まない
- 校(園)内支援チームを立ち上げ、学校(園)全体として取り組む体制をつくる
- 短くても(5分でも)定期的なミーティングや全体研修会をもつ
- 守秘義務の遵守に対する徹底を図る
- 保育園・幼稚園、小中学校間の連携
- 管理職、教育委員会、専門機関、スクールカウンセラーや巡回相談、校医との連携

学校(園)行事や交流への環境設定



- 個別の配慮事項について情報収集(親・前担任など)
- 感覚過敏、こだわり、注意集中困難への配慮
- 事前に分かりやすく流れを伝える
(視覚化など: ビデオや写真、スケジュール)
- 徐々に参加時間を増やす
- 集団の中で少しずつ成功体験を積み上げる
- 教師間の目標の共有
- 仲間の理解と応援

しかるだけでは子どもは変わらない



- ・ 欠点を注意すれば、子どもはそれを直してくれるという幻想を捨てること
- ・ 本人だけが普通に努力しても修正されない、対人関係のできにくさ、多動、忘れ物などがあることを認め、個別の工夫や配慮のある教育を
- ・ 連続欠席、いじめの兆候には素早く対応する

つきあい方のコツ



- ・ 子どもの好みを知る
- ・ 子どもの話を聞く
- ・ 子どもの得意なことを一緒にする
- ・ 苦手なことは少しずつ入れる
- ・ ペースにあわせて休憩や別の活動を入れる
- ・ 約束を守る
- ・ 前もって準備をきちんとする
- ・ できたことをうまくほめる
- ・ 教師自らがコミュニケーションを楽しむ